

# ゴビンダ通信

№ 5

発行：無実のゴビンダさんを支える会  
事務局

Justice for Govinda

- Innocence Advocacy Group

September.30.2002

## 無実の人、なぜ閉じこめられる！

Dear みなさん、おはようございます。

毎日暑くて、狭い拘置所の中で、悔しい思いをしながら、生活しています。この暑さで、息つまり、頭も痛いく、毎日寝苦しい日が続いています。睡眠薬、飲んでも、まったく同じです。食べた食事、ちゃんと便に変わらないで、たびたび下痢も出ます。

この悪い健康状態、毎日続けると、生きていけないので、毎朝15分間と午後15分間、必ずラジオ体操やっています。1週間2回、火曜日と木曜日、30分間、ビルのてっぺんにある狭い部屋で走り、汗だんだん流します。

自分で悪いこと、やってないのに、また地方裁判所、無罪なのに、出さないで、また同じ部屋に閉じ込めたから、心に、深い傷、ついてました。無実の人、なぜ、この処罰、与えるのですか？たびたび、頭と心の中で、この考え、出ます。生まれてから今まで、他のひとたちと、口喧嘩したことの経験も、ありません。日本来て、真面目に一生懸命、仕事していました。タバコも吸わない、お酒も飲まない、ディスコ（クラブ）行ったこともなかった。私は、穏やかな人間です。みなさん、悪いことやってないで、この狭い部屋で、私と同じように座って、考えてみてください。眠れますか？

この小菅の中に、およそ10匹くらい、どら猫、います。外出することもできない、食べ物もないから、いつも鳴き声、聞こえる。私みたい、カワイソウですね。

最近、1週間に1日、食事、食べないで、断食（礼拝）しています。私の神聖な心の願い事、神様、必ず聞いてくれること、自信あります。無実の人に、裁判所から無罪判決言われても、有罪判決言われても、外に出さないで、まったくなんにも理由ないのまま、おんなじ所に閉じ込める、この失礼なやり方、考え方、やめろ・！

無実の人の命、奪うような、おかしい考え方、やめてほしいです。良くない高等裁判所の、2000.12.22判決、おかしい、あやまり、ひどい。本当のこと、なぜ、信じてくれないのですか？無実の人、なぜ閉じ込められますか？無実の人に、なぜ、この処罰ですか？

私は早くネパール帰りたい。80歳以上の両親、子供達、家族と会いたいです。私の神聖な心の願いです。最高裁判所、どうぞ信じてください。私は無実です。

(\*原文はローマ字です)

ゴビンダ・プラサド・マイナリ：9月1日 東京拘置所にて

## 支える会 活動報告!

### ☆学習会報告 ～高裁有罪判決に怒りの声～

9月の学習会は、ロザール弁護団の秦(しんの) 弁護士を講師にお招きし「ロザールさん冤罪事件」について行いました。ロザールさんの支援者も高裁による自判有罪判決(9/4)直後でしたので、何名も来られていました。

秦弁護士は、控訴審判決の問題点を中心に今後の展望を含めて話されました。「控訴棄却」ではなく、「原審を破棄した上であらためて高裁が自判で、原審と同じ量刑の有罪判決」という極めて特異なケースであること、「違法捜査を認めて、自白調書は排除する」としながらも、情況証拠にもとづく事実認定という可能性レベルで有罪判決を出したことなど無念の思いを込めて話されました。

高裁判決は8年ですが、一審段階での500日の未決算入がそのまま認められたことと、原審を取り消したので、控訴審に要した3年は、そっくりそのまま刑期に算入されるため、このまま高裁判決を受け容れれば、3年半ほどで刑期が満了、出所できます。しかし、ロザールさんは、愛する人を殺害したという汚名を着るくらいなら、あくまでも上告して戦うという意志を弁護団に伝えられました。ゴビンダさんと同じく、最高裁に舞台が移りますが、今後とも私たちも注目していきたいと思います。(今井)

### ☆宣伝活動：届くか、正義の声が!

9月20日(金)、国民救援会の「第141次最高裁統一要請行動」に「無実のゴビンダさんを支える会」から5名が、初めて参加しました。

午前8時、最高裁西門前で「最高裁のみなさん、おはようございます…」と国民救援会の街宣車の挨拶から始まりました。刑事・民事など約17事件、全国から集まった62名の上告・再審の関係者が最高裁に出勤してくる職員の方たちにピラを手渡しました。その間、各事件から一人ずつ、順番に、マイクで切実な要請を「憲法と人権の牙城」に向けて行いました。気迫の充満が感じられました。

宣伝行動の後、刑事事件7件(17人)の関係者が最高裁の中に入り小法廷首席書記官補佐と面談し、それぞれの要請をしました。「たとえ有罪率99.9%だとしても、0.1%(千人に1人)は無罪のはず。最高裁が、ゴビンダさんこそ、その1人ではないかという視点で、慎重な審理を行い、正しい判決を出してくれることを信じています」と訴え、自主制作ビデオ「ラダ・マイナリ・イン・ジャパン」とブックレット「神様、わたし、やってない」を提出しました。(客野)

10月の学習会

#### 『大分・女子短大生殺人事件』

～「みどり荘事件」の冤罪被害者、逆転無罪確定までの軌跡～

◆10月25日(金) 午後7時～9時

◆弁護士会館5階507A-C号室

○冤罪被害者：奥掛良一氏(くつかけりょういち)

## ☆☆ 支える会からのお知らせ ☆☆

### ■事務局会議(毎月第2火曜日 午後7時～9時)

今回は10月8日(火) 現代人文社：信濃町下車徒歩5分

#### 無実のゴビンダさんを支える会 事務局

東京都新宿区信濃町20 佐藤ビル201 現代人文社気付

留守電・FAX 0426-37-8566

e-mail : mainali@anet.ne.jp

ホームページ <http://www.jca.apc.org/~grillo>

---

## ゴビンダさんとの約束

ゴビンダ弁護団 神田安積

この世の中に「絶対」ということはありえないのだろう。しかし、私はゴビンダさんと、「絶対」という言葉をいつもやりとりしてきた。「絶対にやっていない」「絶対に無罪だから」「絶対にネパールに帰れる」「絶対におかしい判決だ」「絶対に大丈夫だから」  
・・・。

私が、神山弁護士と一緒にゴビンダさんと初めて会ったのは1997年3月。逮捕されてから裁判が始まるまでに半年余りが過ぎ、裁判が始まってから一審判決が出るまで2年6ヶ月。そして高裁の二審判決が出るまで9ヶ月。ゴビンダさんはそれから2回の新年を迎え、もうすぐ3回目の新年を迎えようとしている。

この間、何度ゴビンダさんと面会をさせていただこう。渋谷警察での最初の面会から、警視庁での面会。オーバーステイで帰国できると思ったのもつかの間の再逮捕直後の渋谷警察での面会。一審判決が言渡されるその日の直前の面会は、数分後に明らかになる運命の重さにおしつぶされそうになった。

そして、一審で無罪判決が出た後、ゴビンダさんは東京入国管理局に身柄を移された。無罪判決が出たのだから自由に帰国できる。何年も会っていない娘さんに会える日がすぐそこに見えている……、そんな気持であったと思う。ところが、東京高裁の裁判官は、記録を読むやすぐに勾留質問をすることを伝えてきた。

「どうして」と考える間もない。とにかくこの緊急事態をゴビンダさんに伝えなければならぬ。ゴールデンウィークの真っ只中であつたが、入国管理局と交渉し、休暇中の面会を行うことになった。しかし、どうやってこのことを伝えたらいいのだろう。無罪判決が出て心の底から喜んだあの日からまだ何日も経過していない。ゴビンダさんに現実に重くのしかかっている事実をうまく伝えられるのか。適切な見通しを伝えられるのか。ゴビンダさんが暴れて入管職員に危害を加えて公務執行妨害で逮捕されはしないかという心配まで頭をよぎった。

休日の突然の面会を驚くゴビンダさんに対して、もう一度裁判所に行かなければならぬことをどのように伝えたのか、そして納得してもらったのか今となってはほとんど覚えていない。

その後の面会は苦い記憶だけがよみがえる。再び東京拘置所での面会があり、二審判決直前の面会があり、二審判決言渡し直後の重苦しくそして何と声をかけていいのかわからない面会は、今でも忘れることができない。ラダさんとの8年ぶりの再会もガラス越しの面会となってしまった。

神山弁護士と話しをしても、客野さんや支援者の方と話しをしても、それからゴビンダさんと話しをしても、いつも自然と口をついて出てくるのは「絶対」という言葉である。「二審判決は絶対おかしい」ということだけである。

ゴビンダさんにもう一度「絶対」という言葉が本当にそうだったと喜んでもらえるよう微力を尽くしたいと思う。  
以上

## <面会記：1> ネパールの山 登ろうね

番号を呼ばれたとたん、こうたろうがものすごい勢いで走り、奥の9番の部屋に入って行った。私が歩いて入室した時には、すでにゴビンダさんと二人の儀式（ガラスの両面から手を合わせる）とナマステの挨拶を済ませて、こうたろうは椅子に座りゴビンダさんは、優しいまなざしで微笑んでいた。

「娘さんたちは、二人とも聡明で、しっかりなさっているんですね」と私が瑞慶覧さんから聞いた話をすると、ゴビンダさんは嬉しそうでした。そして、「こうたろうくんも、勉強、がんばってね。約束どおり私とネパールに行って、高い山に登ろうね。日本の富士山とちがってヒマラヤは、1年中雪なんだよ」と、親戚のおじさんのような感じで話してくれた。

そして私にも「あと5年は養育が大変だけれど、がんばって、こうたろうくんを育ててあげてください」と、今までにないほど余裕のある口調で言った。

「ゴビンダさんのウェア、かっこいい。似合ってるね」と言うと、「シスター・ヘノベバのおみやげです。フランスチームジダンの5番の背番号付きだよ」と、とても嬉しそうに背中を見せてくれた。

面会終了の合図で、「夏休みが終わったから、しばらく会いに来られないけど、また手紙書きます。日本語の練習、がんばってね」と別れを惜しむ息子に、いつもは刑務官に促されるとすぐ指示に従うゴビンダさんも、自分の娘さんの様子を重ねて切なそうで、なかなか立ち去りがたい様子だった。しかし、「暑い中、ありがとう。勉強、がんばって。お母さんの言うこと聞くんですね」と、立派な挨拶をして去った。（岡野美津子記）

## <面会記：2> バースデイカード

ゴビンダさんが、あの事件で拘置所に収監されて5年の歳月がたちました。「支える会」に入っていないながら、活動していませんでした。私は『東電 OL 殺人事件』の本を読み、彼は冤罪と信じていながらも。

それが1年前、ネパール青年と知り合う事により、日頃忘れていたゴビンダさんの事が気になり、西洋暦の彼の誕生日にバースデイカードを送りました。1ヶ月を経て届けられた返信に「寂しい。面会に来て下さい」とあったので、初めて面会に行こうと決心しました。

「国民救援会」と「支える会」のお二人が8月16日に面会を予定されていたので、同行することにしました。「私に1分間話をさせて下さい」とお二人にお願いしたところ、面会室で最初に私を紹介して下さったので、すっかり緊張してしまい、私が息子と呼んでいるネパール人青年の名前を間違えるほどでした。

救援会の方が、現地で記者会見をするというので、お二人は家族や友人に渡す手紙などの確認をするなど大事な話をしていました。私はその間、彼の顔をじっと見ていました。面会の最後に「ゴビンダさんが一日も早くネパールに帰れるよう、神様にお祈りしています」と伝えると、ゴビンダさんは、嬉しそうに笑顔で私の顔を見て、ナマステでさようならをしました。本当に、彼を一日でも一時間でも早く出してあげたいです。

「面会だよ」と言われるとパッと気持ちが明るくなるということで、できるだけ足を運びたい。それが無理なら手紙や雑誌を送ろうと、心からそう思いました。（潮 賢子記）